円山川下流域・周辺水田

（まるやまがわかりゅういき・しゅうへんすいでん）

湿地のタイプ：河川、河口域、水田

位置：北緯35度37分、東経134度49分／標高：0～20m／面積：1,094ha／湿地のタイプ：E 砂、礫、中礫海岸、F 河口域、M 永久的河川、2 湖沼、3 灌漑池／保護の制度：国指定鳥獣保護区特別保護地区、国立公園特別地域、河川区域／所在地：兵庫県豊岡市／登録：2012年7月、拡張：2018年10月／国際登録基準：2、8

河川・水田・人工湿地など多様な湿地が集まる円山川下流域

ミズアオイ咲く湿地に舞い降りるコウノトリ

水田作業の間近にコウノトリが飛来

湿地の概要：

兵庫県の北東部、豊岡市に広がる「円山川下流域・周辺水田」。この湿地のキーワードは「コウノトリ野生復帰」であり、その特徴は「再生と創造による複合タイプの湿地」といえる。

特に目を引くのは、河川の本流16kmを含むことである。全長68kmの円山川は、日本海に近づくにつれ勾配が極端に緩やかになり、その水面は池沼と見間違うほどである。河口両側に迫った山が流量を抑える構造ゆえ、豊かな水生生物に恵まれる一方で、多発する水害に悩まされてきた。

コウノトリの野生復帰が本格化して以降、国土交通省が治水対策の強化と並行して自然再生に取り組んでいる。円山川の水の流れを阻害していた中州は、半分を掘削しながら湿地として機能させたほか、河川敷には多くの浅瀬が創出された。さらに円山川と出石川の合流点付近には河川敷の農地を活用して「加陽（かや）湿地が創出され、下流域全体がコウノトリの良好な生息地となった。

この河川を中心に、兵庫県と豊岡市が整備した人工湿地「ハチゴロウの戸島湿地」、休耕田を活用して住民がつくった湿地、水田など、周辺にはさまざまな主体による多様な湿地が配置されている。コウノトリ野生復帰事業が人々の暮らしや文化に新たな価値を生みだし、地域あげての湿地保全活動が行われている。

2012年7月にラムサール条約に560ヘクタールが登録され、2018年10月には2012年に登録された区域の上流部、国交省が整備した加陽湿地及び周辺の水田を加え、登録区域が1,094ヘクタールに拡張された。

コウノトリ野生復帰：

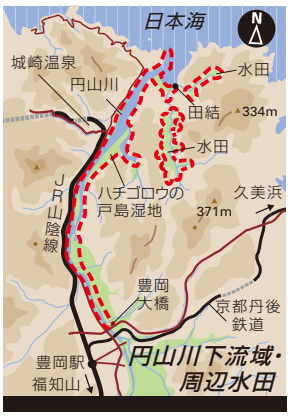
コウノトリは翼を広げると2mもある大型の鳥で、IUCNレッドリストで絶滅危惧ⅠB類に記載されている。日本では1971年に一度は絶滅したが、最後の生息地だった豊岡市で野生復帰の取組が続けられ、放鳥と繁殖を経て、2021年度末時点で国内野外において約250羽が生息している。こうした人里での野生復帰は、世界でも例を見ない。コウノトリ野生復帰は、餌となる生きものに満ちた豊かな自然環境はもちろん、大型の鳥を人々の暮らしに受け入れる文化を創造していくことでもある。

コウノトリ育む農法の米づくり：

水田は、コウノトリの重要な採餌場所である。豊岡市では、冬にも水田に水を張る冬期湛水や、生きものの変態や羽化を助けるため中干時期を延期する水管理など、お米と生きものを同時に育む「コウノトリ育む農法」の米づくりが広がっている。冬期湛水の水田にはコハクチョウやガンカモ類などが飛来し、生きものと共生しながら収穫される「コウノトリ育むお米」はブランド米として高値で取引され、農家に経済的な恩恵をもたらしている。

コウノトリツーリズム：

コウノトリの飛来をきっかけに、休耕田を生きもののための湿地として再生する活動が始まった田結（たい）地区では、地元の女性によって湿地を案内する「案ガールズ」が組織されるなど、地域の生物多様性を活かしたツーリズムも広がっている。

●関係自治体

豊岡市役所　Tel: 0796-23-1111